

# たいにい・ぼっくすつうしん

Vol.114

令和6年  
9月13日

## 認定調査に参加してしてきました。

夏休みも終わり、朝の涼しい風が少しずつ感じられる日が増えてきました。学校が再開し、子どもたちを迎えに行くと、先生方からは、夏の間成長し変化した姿に驚く声が聞かれます。少しずつではありますが、子どもたちは確実にできることが増え、他者を意識した行動が見られるようになっていきます。

先日、座間支援学校で行われた認定調査に同席させていただきました。保護者の皆様にとって、我が子が高校生活から次のライフステージへ移行するための重要なイベントに、同席させていただいたことに感謝を申し上げます。以前、入所施設などで勤務していたため、認定調査そのものは初めての経験ではありましたが、学校という異なる環境に赴いたことで、アウェイ感を覚え、非常に緊張しました。

学校に到着すると、ちょうど調査員さんも同じタイミングで来校され、昇降口で一緒になりました。調査員は相模原市の高齢・障害者支援課の職員です。相模原市では市の職員が調査を行いますが、市町村によっては、相談支援事業所などに調査を依頼している場合もあります。調査の開始時には、対象となるご本人も同席します。まず、ご本人に対して、氏名、住所、家族構成、日常生活の過ごし方について簡単な質問を15分ほど行います。その後、ご本人には退席してもらい、保護者を中心にさらに詳しい聞き取り調査が行われます。調査項目の順番は話の流れによって前後しましたが、全ての項目を聞き取り終えたのは開始から1時間後でした。調査員の方が、控えめに「細かく聞いてすみません」とおっしゃった言葉が特に印象に残りました。認定調査で求められるのは、ご本人ができることではなく、支援がどれだけ必要かという点です。18年間、できることを増やすために多くの努力を重ねてこられた保護者に、できないことを尋ねるのは、やはり心苦しいものです。

帰宅途中の電車内で、一人反省会をしました。認定員の前でご本人の状態を正確に伝えることは、どれだけ準備をしても難しいものです。学校と事業所との認識に一部齟齬があった点については、正確な情報をお伝えできたことに安心しました。認定調査の場に、放課後等デイサービスが立ち会ったことは初めてのことで、学校との繋がりを持つ機会は、こちらから積極的にアプローチしなければ得られないことが多いと感じています。残り少ない学校生活ではありますが、最後までご本人を支えることに欠かせない時間になったと実感しました。

たいにい  
のようす

写真掲載欄のため、内容を削除しております。

### 10月の予定

ハロウィン  
(製作・10/31 イベント)

### 10月 休業日

5日 6日

12日 13日

14日

19日 20日

26日 27日

